

宿縁

八月号

千葉県市川市国府台五丁目二十六番三十九号

浄土真宗
本願寺派 **中原寺**

TEL 0477-372101-2920
FAX 0477-372101-2621

信心の定まるとき

往生また定まる



ある村」の撮影場所がここであったことを初めて知りました。

なぜこの作品が印象に残っているのかといえは、「人間の一生とは？」を問いかけているからです。次のようなあらすじです。

『私は旅先で、静かな川が流れる水車の村に着く。壊れた水車を直している老人に出会い、この村人たちが近代技術を拒み、自然を大切にしていると説かれ、興味を惹かれる。話を聞いている内に、今日は葬儀があるという。しかしそれは、華やかな祝祭としてとり行われると告げられる。』

戸惑う私の耳に、賑やかな音色と舞う花びらと謡が聞こえてくる。村人は嘆き悲しむ代わりに、良い人生を最後まで送ったことを喜び祝い、棺を取り囲んで笑顔で行進するのであった。』

老人役に俳優笠智衆さん、青年(私)に寺尾聰さん、そして美しい村の道を楽隊と共に行進する子供や村人たちの爽やかさが見事に描かれ印象深い作品です。

仏教は「生死(しょうじ)を超える道」の解決です。

七月の法語カレンダーは、「人間は死を抱いて生まれ、死をかかえて成長する」(信國淳)という言葉ですが、死を見据えながら、限りあるいのちを心豊かに生き、心豊かに死を受け容れていく道が浄土真宗です。人間

の目は「生」のみを追い、そこに執着しますから「死」は生の終着駅ですべてが終わりとして考えません。仏教は、「生のみが我等にあらず、死もまた我等なり。我等は生死を並有するなり」です。仏さまの目は、「死などありえない、生まれていくのだ」と「往生浄土」の言葉をもって生死を超えさせるのです。すなわち、私の生きている意味と方向を知らされるところに目がさめるのです。

さて、もう一話黒澤明監督の映画「夢」の第四話「トンネル」も、生者は常に先に生を終えた者によって支えられているのだと考えさせられます。次のようなあらすじです。

『男が歩いている。眼前には、先を見通すことのできない暗闇の円、トンネルがある。そこから、歩哨犬が出てきて、男の足元で吠えだす。男は、慌てながらも、暗闇の中に足を踏み入れていく。漆黒の中で、男の足音がこだまします。やがて、トンネルを抜けたとき、背後から、誰かがやってくる。それは、男がかつて指揮した第三小隊の部下だった。「自分は本当に死んだのでありますか？」と部下は言う。男は、自らの手の中でそう言ったことを語る。しかし、部下は、自分の帰りを待つ両親の灯りが見えると言う。部下の中では、まだ戦時中なのである。やがて、全滅した第三小隊が、行進してきて、男の前で整列する。男は言う。「よく聞いてくれ、正直に言う。お前たちは全員、戦死したのだ。」還って、静かに眠ってくれ」しかし、男の言葉は、男の言い方では、彼らには、伝わらないのだ。「第三小隊、回れ右、前に進め！」その言い方で、小隊は、トンネルの中に戻っ

ていく。すると、歩哨犬が再び、暗闇の中から現れて、男にまとわりつく。仏しよくできない影が、男につきまとってくる。』人類にとつての悲劇の傷跡を、魂のレベルで描いたこの映像が頭に刻まれています。

本願寺第二十三代勝如門主のお裏方大谷嬉子さまの詠まれた詩に曲を付けた「千万(ちよろず)の」(戦没者に捧ぐ)という仏教讃歌があります。

千万のいのちのうえにきずかれし
たいらげき世を 生くるかなしき
大谷嬉子さまは弟さんを沖繩戦で亡くしておられます。

今ここに生きている私は、つい自分の力で生きていくつもりですが、凡夫の目には見えないけれど様々ながりがあって、そういう中で生かされているということを感じなければなりません。

あの戦争が終結して今年で七十五年がたちます。あの時代は苦しかった辛かったと思うのではなく、その辛さ苦しさはあくまで人間の愚かさが起因していたことをしっかりと受け止めなければなりません。

飽くなき欲望と対立をおおる中で、保有する現在の核兵器をすべて使用した場合、人類は一瞬にして全滅するといわれます。仏教はすべてのいのちへの優しさを教えます。

「たいらげき世を生くる悲しさ」には、如来の光に照らされてもおその光に背く仏教徒としての深い嘆きがあります。

現代は生きるということばかりが強調されますが、生きるということが死と同じ意味をもっていることにならずに、本来の意味でのいのちがあるのです。

【寺灯雑記】

○七月豪雨災害に義援金

七月三日から八日にかけての集中豪雨によつて、九州地方や中部地方に甚大な被害をもたらしました。この「七月豪雨災害」に対し、中原寺ふれあい募金より、本願寺たすけあい運動募金に二十万円を送金致しました。尚、ふれあい募金につきましては引き続きご協力をお願いいたします。被災されました皆さまに心よりお見舞い申し上げます。

○平田慎太郎さんがお得度

この度、平田慎太郎さん(国府台女子学院副学院長)がお得度(浄土真宗の僧侶となること)されました。これまで講習会や考查を通して、僧侶としての教学や心得、勤式作法を学んでこられ、その最終段階として、七月六日から十六日まで京都の本山研修施設にて研修を修了されました。京都から戻られた翌日に、中原寺本堂にてご本尊に僧侶となられたことをご報告され、研修期間のご苦労などについてお話しくださいました。

○映画「明日へ」戦争は罪悪である」上映

コロナ禍のため開催が延期されていた映画「明日へ」の上映日が決まりました。
*観賞前売券Ⅱ1,000円(当寺で販売)
*上映日時Ⅱ10月18日(日)
14時・18時の2回

*会場Ⅱ市川市八幡市民会館1階ホール
老いた落語家が語り継ぐ、第二次世界大戦中、叛骨の僧侶の反戦をもとにした映画で

す。是非皆さまにご鑑賞をお薦めします。

【折々のことば】「お盆」

亡くなられた先人たちのご恩に対し、あらためて思いを寄せるのがお盆である。親鸞聖人は仰せになる。

願土にいたればすみやかに
無上涅槃を証してぞ
すなはち大悲をおこすなり
これを回向となづけたり

浄土へと往生された人は、如来の願力によつてすみやかにさとりをひらき、大いなる慈悲の心をおこす。迷いのこの世に還り来たり、私たちを真実の道へ導こうと常にはたらかれるのである。

仏の国に往き生まれていった懐かしい人たち。仏のはたらきとなつて、いつも私とともにあり、私をみまもっていてくださる。このお盆を縁として、すでに仏となられた方々のご恩をよろこび念仏申すばかりである。



【仏教語講座「愚痴」(ぐち)】

言つても甲斐のないことを、くどくど言つて嘆くことを「愚痴をこぼす」といいます。そして、よく愚痴をこぼす人を「あの人は愚痴っぽい人だ」ともいいます。

愚痴という字をよく見ると、「愚」も「痴」も、事理(じり)に暗いこと、おろかなことという意味ですね。

お釈迦さまは「人間が苦悩する原因は、心の中に宿る煩惱(ぼんのう)にある」と教えられました。

煩惱は108種あるといわれますが、その中でも特に強力なものを「三毒(さんどく)の煩惱」といいます。

- 1. 貪欲(とんよく) Ⅱむさぼり欲しがる心。
- 2. 瞋恚(しんに) Ⅱいかり腹立つ心。
- 3. 愚痴です。

愚痴とは、目さきものにとらわれて、真理を解(かい)する能力のない愚かな心を指しているのです。

三毒の三つは貪(とん)・瞋(しん)・痴(ち)とも略します。

また三毒は「三垢(さんく)とも表され、「重誓偈」には「消除三垢冥(しょうじよさんくみよう)」とあります。

意識勤行『ちかひのうた』の中に、「欲といかりと おろかさの わざわい永遠(とわ)に 除かなん」とあるのがそれです。

仏教における「愚痴」は、「文句を言うこと」ではなく、「おろかなこと」という意味です。

愚痴もほどほどに…。

(大乘6月号より転載)

【法座・行事の案内】

◇孟蘭盆会法要(全戦没者追悼法要併修)

*八月十日(祝) 午前十時

おつとめ・重誓偈、讚仏偈

講師：櫻井大雄師(港区善光寺)

ご家族皆様で故人をお忍び致しませう。御参詣をお待ちしています。

○教行信証を学ぶ(行文類)

*八月二十九日(土) 午後二時

講師：前住職

○婦人会法座(正信偈を学ぶ)

*九月五日(土) 午後一時

讚寿の会は中止となり、平常時の法座となります。開始時間にご注意ください。

○壮年会法座

*九月五日(土) 午後三時

法話「九月の法語カレンダーのことば」

講師：住職

※各法座・行事にご参加の際はマスクの着用をお願いいたします。

【八月の掲示板のことば】

苦しみや悲しみから逃れるのではなく
そこから成長する
人こそ尊い人だ

※「YouTube 中原寺」で検索

前任職が10分法話を配信中です。